



■はじめに





平成29年度にスタートした第6次総合計画では、本市の進めるまちづくりのビジョンとして「香り豊かな緑の文化都市」を掲げ、10年間のまちづくりの目標を「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」として、前半5年間に進める政策・施策を定めた前期基本計画を基に、各行政施策に取り組んでまいりました。

令和4年度からは、後半5年間の後期基本計画を基に、政策・施策に取り組めます。これまでの5年の間には、社会の大きな変容がありました。まず、新型コロナウイルスの感染拡大により市民生活や事業活動が大きな影響を受け、いまだに影響が続いております。また、「ICT（情報通信技術）の浸透により、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させる」デジタル・トランスフォーメーション（DX）が進展しました。コロナ禍の影響により、出勤せずに仕事ができるようにオンライン会議の活用、テレワークによる在宅勤務などが進み、デジタルを活用した働き方が浸透していることもDXを後押ししています。そして、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」の浸透が進み、「誰一人取り残さない」持続可能な世界を目指した取り組みが国内外の様々な場面で進んでいます。

このような変化を踏まえ、後期基本計画の策定に当たっては、あわせて基本構想を変更しました。後期基本計画と一体として策定した人口減少対策である「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」ともあわせ、引き続き10年間のまちづくりの目標「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」の実現に向けて、市民の皆さまはもとより、本市に関係する多くの方々とともに取り組みを進めてまいります。市民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

入間市長 杉島 理一郎

まちづくりのビジョン（将来都市像）

「香り豊かな緑の文化都市」

「香り豊かな緑の文化都市」というテーマは、昭和47年に、第2次総合振興計画の改定に向けた本市のまちづくりのシンボルテーマとして初めて掲げられました。市制施行後に策定した第1次計画を踏まえ、新たなまちのあり方を展望する中で、将来にわたって本市のあるべき姿を「まちを愛する多くの人たちによって受け継がれてきた歴史や文化、自然を大切にすることを通じて、自然の香りと文化の薫りを基調とした都市の実現を目指す。」こととしたものです。

以降、第5次総合振興計画までの間、各計画の基本構想において将来都市像として設定されてきましたが、このテーマは本市にとって変わることはない「まちのあるべき姿」であることから、本計画からは基本構想の一部としてではなく、都市宣言などと同様に本市のまちづくりの普遍的な方針をあらわす「まちづくりのビジョン」として位置づけ、計画書の巻頭に掲げることとしました。